

令和4年度病害虫発生予察予報第5号(8月)

令和4年8月4日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
水稲(普通期稲)	いもち病(穂いもち) 紋枯病 ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ 斑点米カメムシ類	<u>多(県下全域)</u> <u>多(中央、西)</u> 、やや多(東、中西) <u>多(中西)</u> 、平年並(東、中央、西) <u>多(中央)</u> 、やや多(中西、西)、平年並(東) <u>多(東、中西)</u> 、やや多(中央)、やや少(西) 並(中西)、やや少(中央、西)、少(東) <u>多(県下全域)</u> <u>多(中央)</u> 、やや多(東、中西、西)
カンキツ類(温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ カメムシ類	平年並(中央) 平年並(中央) 平年並(中央) <u>多(中央)</u>
カンキツ類(中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	やや少(東、西)、少(中央、中西) <u>多(中央)</u> 、平年並(東、中西)、少(西) <u>多(中央)</u> 、やや多(中西)、少(東、西) <u>多(東)</u> 、平年並(中西)、少(中央、西) <u>多(県下全域)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報（高松地方气象台 7月28日発表）

<予想される向こう1ヶ月の天候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、少ない確率40%です。日照時間は、多い確率40%です。

週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目のいずれも平年並、高い確率とも40%です。

<向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
1ヶ月	四国地方	気温	20	30	50	
		降水量	40		30	30
		日照時間	30	30	40	

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	40	40
2週目		20	40	40
3～4週目		20	40	40

<予報の対象期間>

1ヶ月：7月30日（土）～8月29日（月）

1週目：7月30日（土）～8月5日（金）

2週目：8月6日（土）～8月12日（金）

3～4週目：8月13日（土）～8月26日（金）

II 病害虫発生予想

1 水稲（普通期稲）の病害虫

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

(1) 7月の調査では、県下全域で葉いもちの発生が確認されており、発生面積は東部、西部で平年より多く、中央部ではやや多く、中西部では平年並であった。中西部、西部ではズリ込み症状を生ずるほ場も確認されている。

(2) 8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並となる見込みで、多発ほ場を中心に穂いもちに移行することが予想される。

対 策

(1) 出穂前に進行型病斑を認めたら、速やかに薬剤防除を行う。

(2) QoI剤の使用回数は、耐性菌の発生を防止するため、作期を通じて1回とする。

(3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) 紋枯病

予 想 発生量：多（中央部、西部）、やや多（東部、中西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県中央部、西部で発生が見られ、両地域とも発生面積は平年よりも多かった。発病程度は、中央部で平年よりも高く、西部では平年並であった。東部、中西部では、早期稲で平年よりも多発生であったことから、今後、普通期稲でも発生が増加すると考えられる。
- (2) 本病は高温、多湿条件で発生が助長される。8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並の見込みと予想されていることから、既発ほ場を中心に病勢が進展し、未発生地域においても発生し始めると考えられる。

対 策

- (1) 止葉まで発病すると稔実が悪くなり、減収するので、発生の多いほ場では穂孕期および穂揃期に薬剤防除を行う。

3) ごま葉枯病

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（東部、中央部、西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県中西部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度はやや低かった。
- (2) 本病の発生は、肥切れによって助長される。8月は平年より気温が高いと予想されているため、稲の黄化が進みやすく、常発地帯を中心に発生は増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では穂孕期～穂揃期に薬剤防除を行う。

4) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（中西部、西部）、平年並（東部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部で平年よりやや多く、中西部、西部で平年並、東部で平年より少なかった。発生程度は各地域とも平年よりもやや低いか、低かった。しかし、東部では早期稲での発生が多かったことから、今後は東部も発生が増加すると考えられる。
- (2) 8月の気温は平年より高く、日照時間も平年並みと予想されていることから、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪化することがあるので、その場合には他の病害虫とあわせて防除を行う。

5) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（東部、中西部）、やや多（中央部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は、東部、中西部で平年より多く、中央部で平年並、西部で少なかった。また、発生程度は各地域とも平

年並以下であった。

- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないことや高密度になることもほとんど無いため、本虫のみを対象とした薬剤防除の必要性は低いと考えられる。

6) セジロウンカ

予 想 発生量：並（中西部）、やや少（中央部、西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部以外の地域で発生が見られた。発生面積は中西部で平年よりもやや少なく、中央部、西部では少なかった。発生程度は、いずれの地域も平年並か低かった。
- (2) セジロウンカはトビイロウンカと同様、6～7月に中国大陸などから飛来してくる害虫であるため、今後、未発生地域でも発生が見られると考えられる。
- (3) 8月の気温は平年より高くと予想されていることから、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 吸汁や産卵痕により生育被害が出る可能性があるため、ほ場内での発生に注意し、高密度になった場合には薬剤防除を実施する。

7) トビイロウンカ

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られた。発生面積は平年より多かったものの発生程度は平年並で、1株あたりの寄生頭数は5頭以下であった。早期稲においても、中央部、中西部では発生面積は平年に比べて多かった。
- (2) ウンカ飛来解析システムによると、6月6日～25日の間に飛来があったと予測されている。
- (3) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

8) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部、中西部、西部）

根 拠

- (1) 7月の早期稲の調査では、県下全域で発生が見られ、県中央部で平年よりもやや多く、その他地域では平年並であった。発生程度は県中央部で平年よりもやや高く、その他は平年並かやや低かった。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤（ネオニコチノイド剤等）を用いる。

2 カンキツ（温州ミカン）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生面積は平年並、発生程度はやや低かった。
- (2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生面積は平年並、発生程度はやや低かった。
- (2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) ミカンハダニ

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生面積は平年並で、発生程度は平年よりも低かった。
- (2) 8月の気温は、平年より高いと予想されている。高温期には本虫の増殖が緩慢となることから発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4) カメムシ類

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、園地で発生は確認されていないが、フェロモントラップによる調査では、全地域で平年以上の誘殺数を記録している。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されている。高温期には本虫の活動が活発にな

るため飛来が多くなると予想される。また、台風などによる強風の後にも飛来が増加すると予想される。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除する。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：やや少（東部、西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

(1) 7月の調査では、県東部と西部で発生が見られたが、発生面積は東部、西部ともに平年より少なかった。発病程度は両地域ともに平年並以下であった。

(2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（東部、中西部）、少（西部）

根 拠

(1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、東部、中西部で平年並、西部で少なかった。発病程度は中央部で平年より高く、東部で平年並、中西部と西部で平年よりもやや低かった。

(2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（中西部）、少（東部、西部）

根 拠

(1) 7月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は中央部が平年よりも多く、中西部がやや多かった。発病程度はいずれも平年並以下であった。

(2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多(東部)、平年並（中西部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部で平年よりも多く、その他地域は平年並か少なかった。発生程度は中西部で平年よりもやや高く、東部で平年並、中央部、西部で平年より低かった。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されている。高温期には本虫の増殖が緩慢となることから発生の増加は少ないが、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 7月の調査では、園地で発生は確認されていないが、フェロモントラップによる調査では、全地域で平年以上の誘殺数を記録している。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されている。高温期には本虫の活動が活発になるため飛来が多くなると予想される。また、台風などによる強風の後にも飛来が増加すると予想される。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.